

寺  
ごよみ

一 月

一 日 除夜の鐘

年頭参り

一 日 成人のお祝い

一 四 日 法要準備

## 御 正 忌

一 五 日

午前十時 お講(下村)

午後一時 日中法要

一 六 日

午前十時 お講

(浦山・栃屋・熊野・大橋)

午後一時 ご満座

講師 日置宗明師

(三重・信明寺住職)

寺 報  
善 巧  
ぜん ぎょう

発 行

〒 938-0862 富 山 県  
黒部市宇奈月町浦山497  
白 雪 山 善 巧 寺  
TEL (0765) 65-0055  
FAX (0765) 65-0975  
URL <http://www.zengyou.net>

賀 正



宇奈月小学校の写生会にて、野崎れいじくん作

新年明けましておめでとうございます。

仏教では本来「喪中」という考え方はありません。その発端は、江戸幕府の「服忌令(ふつきりよう)」を元に、明治七年に政府が制定した「喪に服すべき期間」にあります。昭和二十二年には廃止されていますが、今もその考え方は根強く残っています。近親者が亡くなった時、悲しさからしばらくはお祝いの事に参加する気持ちにはなれませんが、それと「喪中」という考え方が融合して今の慣習になっているようです。

日本では古来より死を忌み嫌い、「ケガレ」とする考え方があります。それに対して、仏教は「ケガレ」という考え方を持ちません。特に浄土真宗においては、「南無阿弥陀仏を称え、仏様に生まれると思いなさい」という教えです。悲しみを抱えながらも、有り難いと言っていける世界

## 慣 習

を知らせてもらうことは、慣習を超えて、とても尊いことです。その尊い教えを元に、素晴らしい慣習もあります。葬儀やお通夜に「赤飯」を炊き、仏様に生まれた喜びを表現します。地域によっては唐辛子汁がセットになり、涙が出るほど辛いということから、別れの悲しみを表現しているそうです。

様々な慣習や習俗があり、お寺もそれらに入り込んでいるので潔癖ではいられません。折に触れて、そもそもの意味を知ることが面白いものだと思っています。

新年を迎えるにあたり、どうぞ手を合わす縁を大切に過ごして下さい。お寺では親鸞聖人の祥月命日に勤まる「御正忌報恩講」が一月十五日と十六日に行われます。

善巧寺住職

雪山 俊隆

## 報恩講

十月十九〜二十日

浄土真宗寺院にとって「要」の法要「報恩講」が行われました。この法要がまとめられなくなっ

た時、お寺の終焉を意味するほどに大事な行事ですが、ここ数十年の間、世代交代がされないまま参拝者は減り続けています。それなりにあの手この手を尽くしているつも

りですが、がんばっているお寺さんを垣間見ると、力不足を痛感します。どうぞ、皆様の法要を大切におつとめ下さい。



司会は教化部部长鬼原猛さん



仏婦役員の皆さん



発願寺住職川崎順正師



完成したおけそくをお供え



おけそく作り



寺の畑清掃にお力いただきました。

## お寺体験

十月二十五日

黒部JCI主催の「徳高まるお寺体験」が行われました。

内容は、おつとめ、天井画観覧、御文章の写経、清掃奉仕という流れで行われました。会員の方を中心に三十名ほどが集まり、ご門徒さんや知り合いもちらほら。写経に一時間ほど、言葉を大事に書き写すことを中心に行いました。どのように蓮如上人のお言葉を受け止められたのか、興味深い内容でした。





福井・千福寺様からの団体参拝

# 空華忌

十一月十五〜十六日

今年の空華忌は、行信  
教校より佐々木寛爾師を  
お迎えして行われまし

た。ご門徒さんをはじ  
め、お世話になっ  
る高務哲量先生のお寺  
千福寺様より団体参拝  
や高岡の仏教を学ぶ会  
の方々の参加もいた

き、ご法義あふれる法  
座となりました。  
次年度より、空華忌  
の初日をより深く浄土  
真宗の教えを学ぶ場  
「行信講座」として行  
う予定です。次ペー  
ジをご覧ください。お経  
の内容を詳しく知り  
になりたい方はぜひご参  
加ください。

# 教区仏婦研修旅行

十月二〜三日

三重県一身体の高田派  
専修寺様へお参りしまし  
た。前住職隆弘が最後の  
ご法話を行った思い出深  
い所です。善巧寺からは  
四名参加。和子お裏方様  
にお目にかかって思い出  
話に花が咲きました。

# 教区仏婦東北被災地炊 き出しボランティア

十一月二〜三日

善巧寺から四名の参  
加。二度目の戸倉仮設住  
宅で顔見知りも多くなり  
豚汁とおはぎを食べても  
らって嬉しい出会いでし  
た。



# 寺 ごよみ

二月

# 寺 ごよみ

三月

- |         |        |         |        |
|---------|--------|---------|--------|
| 一<br>日  | 浦山 講   | 一<br>日  | 浦山 講   |
| 二<br>日  | 三日市報恩講 | 二<br>日  | 三日市報恩講 |
| 三<br>日  | 三日市報恩講 | 三<br>日  | 三日市報恩講 |
| 四<br>日  | 三日市報恩講 | 四<br>日  | 三日市報恩講 |
| 五<br>日  | 三日市報恩講 | 五<br>日  | 三日市報恩講 |
| 六<br>日  | 下立報恩講  | 六<br>日  | 下立報恩講  |
| 七<br>日  | 下立報恩講  | 七<br>日  | 下立報恩講  |
| 八<br>日  | 下立報恩講  | 八<br>日  | 下立報恩講  |
| 九<br>日  | 下立報恩講  | 九<br>日  | 下立報恩講  |
| 一〇<br>日 | 下立報恩講  | 一〇<br>日 | 下立報恩講  |
| 一一<br>日 | 下立報恩講  | 一一<br>日 | 下立報恩講  |
| 一二<br>日 | 下立報恩講  | 一二<br>日 | 下立報恩講  |
| 一三<br>日 | 浦山報恩講  | 一三<br>日 | 浦山報恩講  |
| 一四<br>日 | 浦山報恩講  | 一四<br>日 | 浦山報恩講  |
| 一五<br>日 | 浦山報恩講  | 一五<br>日 | 浦山報恩講  |
| 一六<br>日 | 浦山報恩講  | 一六<br>日 | 浦山報恩講  |
| 一七<br>日 | 浦山報恩講  | 一七<br>日 | 浦山報恩講  |
| 一八<br>日 | 浦山報恩講  | 一八<br>日 | 浦山報恩講  |
| 一九<br>日 | 浦山報恩講  | 一九<br>日 | 浦山報恩講  |
| 二〇<br>日 | 浦山報恩講  | 二〇<br>日 | 浦山報恩講  |
| 二一<br>日 | 浦山報恩講  | 二一<br>日 | 浦山報恩講  |
| 二二<br>日 | 浦山報恩講  | 二二<br>日 | 浦山報恩講  |
| 二三<br>日 | 浦山報恩講  | 二三<br>日 | 浦山報恩講  |
| 二四<br>日 | 浦山報恩講  | 二四<br>日 | 浦山報恩講  |
| 二五<br>日 | 浦山報恩講  | 二五<br>日 | 浦山報恩講  |
| 二六<br>日 | 浦山報恩講  | 二六<br>日 | 浦山報恩講  |
| 二七<br>日 | 浦山報恩講  | 二七<br>日 | 浦山報恩講  |

# 御正忌

親鸞聖人の祥月命日に行  
われる厳粛な法要

一月十五日 午前十時 お講

午後一時 日中法要

十六日 午前十時 お講

午後一時 ご満座法要

講師 日置宗明（三重・信明寺住職）

## 雪ん子劇団さよなら公演

日 時：三月二十一日（土）

午後一時半

会 場：宇奈月国際会館セシネ

入場料：五百円

三十五周年を迎えた雪ん子劇団が幕を下ろすことになりました。

ご門徒の皆様のご理解の下、子供達の心を育て、全国各地で公演させて頂きました。

善巧寺の顔とも言われた雪ん子劇団、名残惜しいことではありますが、三月二十一日の公演がさよなら公演となります。一度もご覧になったことのない方もどうぞ最後の公演を見届けて下さい。



## 年頭参り

一月一日午前八時頃



## 御正忌準備

一月十四日午前八時半



## 仏婦総会&新年会

二月七日午前十時

## 行信講座

浄土真宗を深く学ぶ講座

ぎょうしん

みょうきょういんどうよう

善巧寺十一世明教院僧鑑の流れを汲む学校「行信教校」を母体に、卒業生を中心とした研修会「専精会（せんしゅうかい）」が全国で行われています。来年度より、専精会富山支部が開設されます。初年度は大遠忌法要でもお話いただいた天岸浄圓師をお招きして行われる予定です。

平成二十七年 四月一日 午後二時

十一月四日 時間未定

講師：天岸浄圓師（行信教校講師）

会費：二千円（僧侶五千円）

主催：専精会富山支部



## 合 掌

三十五周年を迎える雪ん子劇団が幕を閉じます。劇団は昭和五十四年、住職俊之、坊守喜子の時代に、副住職の隆弘と妻玲子によって創設されました。創設から十年は大躍進で走り続け、親の会、壮年会、若婦人会などの絶大な協力もあり、現住職と副住職が在籍時には、旧浦山小学校の三分の一ほどとなる団員六十名を超え、公演数も年間十数回行っていました。先代往生後に新たに創設された劇団シニア部の存在も大きいです。振り返るとたくさんの方の芽が結び花開く姿を見せられました。なによりも、お寺が子供たちの居場所になったことが掛け替えのないことです。

三十五年にわたり支えて下さった方々、誠にありがとうございました。

